



“宇宙からの発信”

前福島市立清明小学校長

荒 晶子

おほしさんが ひとつでた
とうちゃんか かえってくる
三歳のひろし君が言葉にした
心の内を、保母さんが書きとめ
たものです。ひろし君と、お父
さんの温かな関係がほのぼのと
伝わってきます。

『ひろし君にとってお父さんは
大空に輝く希望の星なので
す。夕ぐれの街角で、お父さん
の帰りを待ちわびているひろし
君の姿が、ありありと見えてき
ます。心の内の宇宙空間の見事
さに感動します』と、心理学者
河合隼雄さんは語っています。

彼の著書「子供の宇宙」に描
かれていた子供たちの感性の豊
かさに圧倒されましたが、それ
にも増して河合さんのすばらし
いコメントに深く心打たれま
す。子供の何気ないつぶやき、気
づきを深く受け止め視とり、感
じることでできる豊かな感性の
見事さに胸が熱くなりました。

『子供は、いつも自分の宇宙か
ら発信しているのに、キャッチ
できない大人によって圧殺され
てしまうことが多い』

『子供が人の生き方を観察し、
自分なりの価値判断をしている

ことに驚かされます。さみしい
中でよく生きている人を、「えら
い」と断定する中に、その子の
やさしさに支えられた倫理観が
感じられます。人間の倫理の本
質をより明確につかんでいま
す。大人がごまかしの多い人生
を生きている時に子供は澄んだ
目でじつと見えています』と河合
さんは語っています。

今、子供たちの問題行動が、
社会問題として大きく取り沙汰
されていますが、問題の背景に
は、子供たちを取りまく大人た
ちの対応の不適切さがあるよう
に思います。子供に心を寄せ、
彼等の心の動きを感じとり、そ
れを受け止め、共に悩み考え歩
むための必読書が、「子どもの宇
宙」だと思っています。

本の名称：子どもの宇宙

著者名：河合隼雄

発行所：岩波書店

発行年：一九九二年三月十日

本コード：ISBN

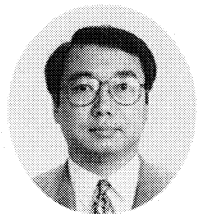
4-000000319

一冊の本

なぜをひかないための 「なぜのひきかた」

県立福島高等学校教諭

大和田 修



なかなか売れないからかもし
れないが、詩集は総じて値段が
高い。この本などはたった六五
頁しかないのに（十年前に買っ
た当時で）一、六五〇円もした。
しかし、小説などは二度三度と
読むことはめつたにないが、詩
集は折に触れ何度も手にする機
会があるから、気に入った詩集
を買った場合は、結局、お得な
のかも知れない。

仕事でくたくたになつたと
き、ベッドの中で読むものは、
理解しようとか、解釈しようとか、
批評しようとか考えること
なく、スーッと心の中に入つて
きて、疲れた体まで揉みほぐし
てくれるものが一番である。あ
るいは軟弱と言われるかも知れ
ないが、こんなとき、重厚長大、
観念的かつ難解なものを読む気
力や根性を、私は持ち合わせて
いない。ホツとする詩集が読み
たくなる。

表題詩集の巻頭にある「ある
日」という作品はこう始まる。

ある日
会社をさぼった
あんまり天気か
よかったので

わかる、わかる。詩的才能が
皆無である私は、日ごろ自分で

は表現することのできない心の
真実を、詩人に代弁してもらっ
たことで、そこはかとな慰め
と安らぎを感じる。

それはなぜではないのだが
とにかくなぜではないのだが
こころほそい ときは
ひとにあらがう
げんきもなく
なぜです
と
つぶやいてしまう

「なぜのひきかた」という詩の
第三連である。職業がら生徒の
顔が目につくかんだりもするが、
苦いユーモアの裏にある感情の
リアリティーに、ついつい頷い
てしまう。
こういう詩をときどき読むこ
とによって、私はかろうじてか
ぜをひかずに過ごしている。

本の名称：なぜのひきかた

著者名：辻 征夫

発行所：書肆山田

発行年：一九七七年五月十日

本コード：1021-231-0100